

第1回 災害対策ワーキンググループ会議 議事録

日時：平成27年10月1日（木）

場所：前橋市民文化会館4階会議室

出席：山根、斉藤（勝）、斉藤（慎）宮崎、大谷、八木原

メンバー：委員長 山根 雅樹(西片貝クリニック)

副委員長 八木原 賢一(古作クリニック玉村分院)

宮崎 郁英(前橋赤十字病院、日本臨床工学技士会災害情報コーディネーター群馬県担当)

大谷 真弓(わかば病院、同コーディネーター群馬県担当)

斉藤 勝(太田記念病院)

斉藤 慎(公立富岡総合病院)

○ワーキンググループ設立の経緯

最近の報道で、2036年までに70%の確率で首都直下型地震が発生すると言われている。東日本大震災に限らず日本のあちこちで震度7クラスの地震が発生している中で、血液透析医療における災害対策は災害情報ネットワーク、各都道府県、地域、施設でのマニュアルが作成されている。そのような中で群馬県においては比較的災害が少ないためかこの災害対策については他県よりも大きく遅れている。これまでもこの事態を打開しようと動いた団体等もあったが、完成には至っていない。最近は減災というキーワードでマニュアルを見直す動きがある中で当会としても何とかしたいという思いはあった。

このような中で群馬県透析懇話会の植木会長（東邦病院 副院長）より、群馬県の透析における災害対策について、協力していこうとお誘いを受けた。群馬県透析懇話会は透析に従事する医師の団体であり、群馬県からも透析に関する窓口として認知されている団体である。

○活動目的

- ① 群馬県内における維持血液透析施設の連絡網作成
- ① 群馬県地域防災計画に透析災害対策ガイドラインの追加
- ② 各施設（各スタッフ）に群馬県の透析災害対策の体制を理解してもらう
- ③ 合同訓練の実施
- ④ 給水車の優先確保の請願
- ⑤ 日本透析医会災害情報ネットワークへの支部登録

○活動計画

- ① WGメンバー選出（オブザーバーとして植木先生、安藤先生、関口室長）
- ② 各地区（西毛、中毛、東毛、北毛）の代表・副代表施設選出（医師と技士）
- ③ 本部・副本部決定
- ④ 患者・情報収集対応フロー作成（群馬県が被災した場合と他県からの受け入れの場合の2パターン）、メーリングリスト作成
- ⑤ 3月6日の透析懇話会で原案発表、パブリックコメント募集
- ⑥ 懇話会・技士会で異論なければ県へ提出、群馬県地域防災計画に追記されるように活動
- ⑦ 福島県郡山市等で実例のある「災害時における人工透析施設への優先的水道水の確保（加配）」についての請願書の提出
- ⑧ 定期的な情報伝達訓練の実施
- ⑨ 『減災』をキーワードとした対策方法の思案、マニュアル改訂

○メンバーへ資料発送:

栃木県災害透析医療ガイドライン(平成25年1月改訂版)

群馬・福島・栃木・茨城県4県技士会合同の災害対策交流会(平成27年4月開催)

災害発生時における医療対応(群馬県健康福祉部医務課スライド平成25年2月)

活動予定案、群馬県透析施設連絡網

○今後の予定

透析施設名簿作成

透析施設のエリア分け

各地区の代表施設(医師・技士)選出

被災対応フロー作成

他県からの受け入れ要請時のフロー作成

○次回会議日程

12月2日(水)20時頃(理事会終了後)前橋市民文化会館4階会議室